



第160号 令和4年1月20日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ  

スポーツ振興くじ助成事業

特集 学校運動部活動と連携し、武道系種目に取り組むクラブ

▶▶▶ 特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ(福井県)

暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブ

▶▶▶ 一般財団法人北栄スポーツクラブ(鳥取県)

特別企画 他団体と連携するクラブ

▶▶▶ 一般社団法人コンサドーレ北海道スポーツクラブ(北海道)

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

学校運動部活動と連携し、武道系種目に取り組むクラブ

特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ ＜福井県鯖江市＞

平成24年度から全国の中学校で武道の授業が必修となりました。武道は我が国固有の文化であり、相手を尊重して練習や試合ができる種目です。中学校での必修化に伴い、総合型クラブにおいても、武道系種目の活動をしているクラブも増えたのではないのでしょうか。

そこで今回は、武道系種目における安全対策についてのヒントとなるよう、学校運動部活動と連携し、多くの武道系種目を取り入れて活動するクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

設立の経緯

欧米で普及しているスポーツクラブをモデルとして、子どもからお年寄りまでが枠を超え、様々な種目・競技活動に参加できる総合型地域スポーツクラブをつくるため、行政・学校・地域が連携し、さばえスポーツクラブ(通称:さばスポ)は鯖江中学校を母体として平成12年に福井県内で最初に誕生しました。

さばスポは登録会員の年会費と行政の補助金によって運営しています。鯖江市ではスポーツ少年団や中学校の部活動加入率の低下、学校完全週五日制度導入から、学校施設(体育館、武道館、グラウンド)や公共の体育施設を市民が利用できるように開放学校としており、スポーツクラブの活動の拠点となっています。

クラブ理念

『自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い、学び合い、いつでもできる交流クラブ』

事業実績、事業展開

スポーツ講座運営事業・クラブイベント事業・委託事業・広報事業・研修事業などを計画・実践しています。

スポーツ講座では、スクール(小学生対象)12教室、サークル(中学生対象/部活動)12部活、サークル(一般対象)14講座、健康教室(幼児・小学生・一般対象)15教室を開講しています。



クラブイベントではスキー教室・会員交流会・ウォーキング大会・つつじマラソンボランティア協力・鯖江中学校文化祭出店・福井国体式典協力・スポーツ婚活・運動会・バーベキュー・スポーツフェスタ・他のスポーツクラブとの交流イベントなどを企画・実施しました。

委託事業では、文科省事業『地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト』、鯖江市委託事業『体育大好き支援事業』、『リスタートフレッシュアップ事業』、『スポーツ婚活』、『アクティブ・エイジング健康事業』などを受託して実施しました。今年度は『体育大好き支援事業』（鯖江市）、『地域運動部活動推進事業のモデル拠点校』（スポーツ庁）の委託事業を展開中です。

2 鯖江中と連携し各種武道を展開

中学施設利用面で優遇一市の配慮

設立の経緯として振り返れば22年前、「部活動を地域のスポーツ指導者と共に運営しようではないか」という大きな提案を、当時の部活動担当教員、父母の会保護者、地域の指導者の方々から中学校に投げかけていました。その時は既に地域の指導者が土曜日の部活動に入り、顧問と一緒に生徒たちの指導に当たっていました。鯖江市より総合型地域スポーツクラブの設立・発展を期待され、中学校の体育館・武道館・グラウンド施設を開放学校として利用管理する優遇措置を当クラブがいただくことになったことが当クラブ設立のきっかけです。設立当時は武道系種目として、柔道、剣道、合気道、居合道などが加入し活動していました。

クラブ設立時に中心メンバーとして尽力していたのが、現在の鯖江中学校校長です。以後、当クラブと中学校の連携関係は信頼も強く今日に至っています（もちろん順風満帆に現在があるわけではないが）。

柔道少年団→中学柔道部 小中一貫指導の環境が整備

◆柔道スクール

当時、鯖江中学校校区内で活動していた「鯖江柔道スポーツ少年団」は、小学校の体育館を活動拠点としていましたが、練習時の3分の1程の時間を畳の準備と片づけに取られるという問題を抱えていました。そこで中学校の武道館を借りられるメリットから当クラブの会員になり、週2回の夜の練習時間が確保できました。以後当クラブは、中学校との信頼関係において畳の置き場確保や中学生との合同練習などの活動を可能としました。現在は、柔道スポーツ少年団のほとんどの子どもたちが中学進学で柔道部へ入部するようになり、小中一貫指導の環境が整備されています。クラブと中学校、鯖江市柔道連盟との連携も素晴らしく、中学校の部活動指導にも手厚い協力が得られ、柔道経験のない顧問には心強い存在となっています。

当クラブは、柔道スポーツ少年団からの畳張替費用の補助要望に対しても、当クラブ内の備品購入予算より拠出して要望に応じてきました。また、元気に柔道を楽しむ子どもたちを見るのが嬉しく、子どもたちの大会での成果には激励金を支給したりして温かく見守る存在となっています。

・指導者について

現在の指導者は5名。うち1名が女性で、女の子の保護者からは何かと安心感があり喜ばれています。指導者は子どもが好きで練習時もそれぞれの様子に目を配り、高学年の子には、「先輩と呼ばれるにはどういう行動をしたらよいか」を問いかけながら、自覚・成長を見守り促すようにしています。

ほめて伸ばすことを心掛け、チャレンジする子は大いにほめ、また楽しく活動するために準備運動では綱のぼりや鬼ごっこなどを取り入れています。指導者と保護者とのコミュニケーションもとれて、新入部員には上級者の親が丁寧に説明し、指導者と保護者間で柔道以外のことも相談できる関係ができています。

・スポーツクラブとの関係

スポーツクラブに登録加入していることで、柔道競技だけでなくクラブ内にはいろんなスポーツが同時に体験できるメリットがあり、子どもたちの可能性を広げることができます。柔道を習ってみたい人にとっても、当クラブの柔道スクールは地域が限定されていないことや気軽に入りやすいことで、体験希望者も多くなっています。今後も定期的に柔道体験会を開くことにより、社会人になってからでも技を磨きつつ黒帯を目指したい方が増えていき、将来的に子どもたちの指導者として地域に貢献するようになってほしいと思います。



鯖江柔道スポーツ少年団(スポーツクラブ会員)と地域の指導者の集合写真



柔道スクール 地域の指導者の指導風景

トップアスリートが巡回指導－剣道

◆剣道スクール

鯖江中学校剣道部は、剣道経験者の顧問が長い間指導に携わっていました。当クラブは剣道部に対してトップアスリートの巡回指導の管理・運営や開放学校による練習会場の確保などのメリットを提供しています。また、剣道未経験の顧問の時には、保護者の要望を受けて部活動以外の時間も練習ができるように、地域の指導者と練習会場の確保に協力しています。

・中学生会員の反応

剣道部の男子キャプテンと女子キャプテンに感想を聞きました。本人たちは、従来の部活動とスポーツクラブでの活動の違いをあまり詳しく理解できていないが、顧問の先生から指導を受ける以外にも様々な方から指導されることは、色々な技がより習得できる上、様々な人に相手になってもらえるため、とても良いと感じているようです。地域の方の指導は大歓迎です。指導するポイントはそれぞれに違っていても、生徒たちが自分なりの気付きを発見できると思います。

2人が掲げた目標は、「全国大会出場」、「団体に1勝でも多く勝ちたい」、「全国大会へ行くだけでなく、大いに活躍したい」。

・地域剣道指導者の声

「かつては個人道場で子どもたちに剣道を教えていたが、事情により指導をやめていました。しかし、娘の剣道入部をきっかけに剣道指導を復活しました。娘に勝負で負けるわけにはいかないので、自分の練習にも励んでいます。幸い自営業のため指導時間が週3日取れるので、これまでの自分の集大成を踏まえ理論的に教えたいし、いろんな教えがあつていいと思います。受け止め方は自由で、子どもたちが選べばいいと思います。部活動の地域移行が進むなか、地域スポーツ指導者としての参加にはやりがいを感じています。やれることはどんどんやっていきたいし、今は充実しています。指導者間にはいろいろな意見があるが、自分はどこの学校の生徒でも分け隔てなく教えていきたい。そして地域全体の剣道力向上を目指していきたいです」

・クラブ側の声

「地域指導者の頼もしい生の声を聞いて、未来が明るくなったような気がしました。地域にまだまだいっしょやるはずの指導者の掘り起こしに、今後も力を注いでいきたいと感じました」



剣道サークル会員(鯖江中学校剣道部員)と地域の指導者



剣道顧問と地域の指導者の合同指導風景

学校外部活動として認定—なぎなた

◆なぎなた

なぎなたの活動はもともと剣道指導者として部活動に関わっていた地域の指導者が、平成23年に個人の道場(武陵館・中嶋道場)を拠点に「なぎなた教室」を開設しました。当クラブには会員の確保、練習会場の確保などのメリットがあるため、当クラブに加入し、地域の小中学生から大人まで楽しめるスポーツとしてなぎなたを普及する目的で活動しています。現在も中学校内の部活動ではありませんが、学校外部活動として認められ、大会での優秀な成績を上げたときは他の部活動と同じように中学校で表彰されています。また、福井国体でなぎなた競技が素晴らしい成績を残した背景には、当クラブのなぎなた会員の貢献も見逃せません。



鯖江中学校なぎなた会員の全中大会直後の記念撮影
(左は大久保校長先生)

スポーツクラブが合同で市教委に要望 一部活動改革

◆部活動連携

当クラブは地域中学校(鯖江中学校)を母体として設立した経緯で、設立当初より土曜日は小・中学校生が地域の指導者と一緒にスポーツを楽しむ活動を実践していました。令和元年には鯖江市内の3つのスポーツクラブが連名で鯖江市教育委員会教育長に対して、「部活動改革に係る取り組み」を3スポーツクラブとしてサポートする体制の整備を進める意向を伝え、鯖江市内の中学校部活動生徒のスポーツクラブへの加入促進を進めるため鯖江市教育委員会および各中学校校長から理解と支援を得られるよう要望書を提出しました。令和3年にスポーツ庁の地域運動部活動推進事業のモデル拠点校に指定されて、鯖江中学校の柔道部、剣道部の部活動がその対象となって推進しています。現在土曜日、日曜日のどちらかの部活動がスポーツクラブの時間として、地域の指導者と学校顧問の連携と協力の下に行われています。

徹底した安全対策の下に指導 柔道

◆安全対策、安全指導への取り組み

スポーツクラブに登録加入している中学生以下の会員は、全員がスポーツ安全保険に加入することを条件としています。さらに柔道の会員にはワンランク上の(補償額が大きい)保険に入ってもらっています。練習時の安全対策としては、以下の内容を重点的に指導し、順守しています。

- ① 練習時は子ども全体を見るだけでなく、レベル別にグループ分けして5名の指導者がレベルに合わせて手分けして目が行き届くように安全な個別指導をしています。
- ② 子どもたちには、常に周りを確認して「危険がないか」を自分で判断・対応できるように指導しています。
- ③ 子どもたちがどれだけ上達したか親に感じてもらうために親子柔道の機会を設けて、同時にケガ発生時の対処法(AEDはどこにあるのか、救急車への連絡はどのように誰がするのかなど)を日頃より指導および訓練しています。
- ④ 指導者は、子どもの様子を確認して、その状態に合わせた練習メニューや無理をさせないような体調管理、練習時のケガ防止に細心の注意を払うことを心掛けています。

3 武道系以外のサークルでも連携強化を

今回は武道系種目を重点的にレポートした内容ですが、当クラブには中学校部活動のサークルが12種目(312名)加入しており、柔道・剣道の活動と同様な姿(地域指導者と顧問が連携・協力できる環境)を目指し、その実現に向かって中学校・行政・スポーツ協会(種目協会)との連携・協力を強化します。

より良い連携のためにも情報交換を活発に

過去に文科省の事業を受託しトップアスリートを中学校剣道部に派遣する際に、中学校顧問と相談し、顧問が尊敬する指導者に来てもらうことができました。その方の剣道の教えや心構えには、顧問をはじめ生徒たちが劇的に変わるという驚きの効果がありました。クラブの人脈だけではその指導者にたどり着くことができなかつたと思います。ここぞという場合にはクラブが関係者と常にコンタクトを取り、情報交換をすることで、より良い連携を創り上げることが重要だと今も強く思います。子どもたちには憧れの存在であるトップアスリートからの指導やメッセージは、夢を追うきっかけとなり、当クラブとしてこのような機会を増やせるように人脈をフルに活用していきたいと思います。

(特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ 理事長・森田末廣 理事・石田八州子)

クラブプロフィール

設立年月日 平成12年9月1日(平成14年5月7日法人登記)

所在地 福井県鯖江市

運営 会員数1,135名(令和3年11月現在)、予算規模1,335万円(令和3年度)

- 特徴**
- スクール、中学校サークル、一般サークル、健康教室等の多種多様な種目講座があり、いくつでも自由に選び参加できる会員制のクラブ
 - 子供から高齢者まで多世代参加型の総合型クラブ
 - 社会人になってもスポーツを継続できる環境をつくり、地域住民の生涯スポーツの振興に寄与するクラブ
 - 地域の指導者がいつでも気軽に小学生、中学生の指導に参加協力できる環境のクラブ

連絡先 福井県鯖江市宮前二丁目9番1号 鯖江市スポーツ交流館内

TEL 0778-51-8618 FAX 0778-51-8618

URL <http://sabae-sc.or.jp/>

E-Mail sabae-sc@dune.ocn.ne.jp

特集

暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブ

一般財団法人 北栄スポーツクラブ

＜鳥取県東伯郡北栄町＞

総合型クラブが、地域スポーツ文化の豊かな享受の場として充実・発展していくためには、スポーツ指導の現場において、暴力の根絶に対する共通認識を一層高めるとともに、暴力、ハラスメントおよび指導者の権力に基づく精神的な追い込みなどの行き過ぎた指導が行われていないかを改めて見直し、暴力行為等を未然に防ぐことが不可欠です。

そこで今回は、暴力行為等の根絶に向けた取り組みを行うクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

北栄町のスポーツ団体を一括管理

北栄スポーツクラブはスポーツ少年団、体育協会、一般クラブ等北栄町におけるスポーツ団体を一括管理する総合型地域スポーツクラブです。また町内社会体育施設を指定管理している強みを生かして、より地域に根差したクラブとなっています。会員数は約1,200人。一般が33クラブ、小学生向けが21クラブ、中学生向けが9クラブあり、子どもから高齢者までスポーツを楽しんでいます。

多世代を対象に各教室を運営

当クラブが主催している教室はシニア世代向けの『健康運動教室』（高齢者向け教室/週1～3）、働く世代向けの『バランスボール&フィットネス教室』（隔週）、『ヨガ教室』（週1）を通年開催。単発でジュニア世代向けの『水泳教室』、『ランニング教室』、『スキー教室』、『北栄BG塾』（夏休みの勉強・運動・創作活動教室）などを行っています。

特に健康運動教室は3クラスあり、計150名が参加しています。この教室は健康寿命の伸長を目的としています。バランスボールを使った運動機能の向上のエクササイズはシニア世代に人気があります。



2 暴力根絶に向け研修会を継続開催

昔ながらの暴力(言葉の暴力を含む)に頼った指導は子どもたちを不幸にするだけでなく、スポーツ離れを助長してしまうという危機感がありました。自分自身には、トップアスリートは子どもの頃から練習漬けの厳しいトレーニングを積んできて、楽しんでいる時間はないという先入観がありました。しかし、研修会で講師を依頼したトップアスリートの方々は「成長期のスポーツで一番大事なことは、その競技を楽しむこと」だと異口同音に話されました。また、オリンピックなどトップの選手やプロの指導者はジュニア世代に対してスポーツを楽しむ、楽しませる指導をしています。輝かしい実績と経験のある方々が楽しむことを大切にされていることに驚きました。高度な指導をすることが大切なのではなく、良い意味でゆとりを持った指導をすることが大切だと分かりました。

そういった指導方針を本クラブでも推進していくために、平成26年から『北栄スポーツクラブ研修会』、平成30年からは『ジュニア指導者研修会』を継続して開催しています。

【クラブが目指す指導方法】

- 子どものうちは特定の競技に偏ることがないように指導して、将来、他の競技もできるようなオプションを残す。
- (暴力・暴言・勝利至上主義による)バーンアウトを防ぎつつ、将来(中高校～)に向けた基礎づくりを行う。
- 子どもの頃からスポーツを楽しみ、生涯にわたりスポーツに親しみを持てる大人に育ててほしい。

オリンピックを講師に招く研修会を実施

『北栄スポーツクラブ研修会』

オリンピックを招き、子どもたちが夢をつかめるための指導や心構えを学びました。出席者はジュニアクラブ指導者、ジュニアクラブ員、その他指導者、地域住民の方々です。



オリンピックを講師に招いたスポーツクラブ研修会

【講師】

平成26年 テーマ:夢をつかめ
講師:山口 香(柔道)
内容:柔道から学んだこと

平成28年 テーマ:夢をつかめ
講師:三屋 裕子(バレーボール)
内容:バレーボールから学んだこと

平成27年 テーマ:夢をつかめ
講師:村上 幸史(陸上)
内容:世界の舞台で感じたこと

平成30年 テーマ:夢をつかめ
講師:岩崎 恭子(水泳)
内容:幸せはいつも自分でつかむ

【特に印象に残っているエピソード】

● 平成28年研修会

元々運動が得意ではなく身長が高いことがコンプレックスだった。中学生になりバレーボールの顧問の先生に出会い、それまでコンプレックスでしかなかった身長が強みに変わった。人間考え次第でいくらでも変わることができる。

● 平成30年研修会

14歳で出場したバルセロナオリンピックは金メダルを獲得できたが、その後期待を背負い、泳ぐこと自体が楽しくなくなりました。4年後に出場したアトランタオリンピックではメダルを獲得できなかったが人間として成長できた。どうしても金メダルを取ったバルセロナオリンピックが注目されるが、アトランタオリンピック出場までの苦勞を乗り越えたからこそ、今の幸せがある。

『ジュニア指導者研修会』

プロの指導者を招き(平成30年～令和2年)、アンガーマネジメント、子どもを楽しませる指導法、コーディネーショントレーニングなどを学びました。この研修は毎年継続開催することで先進的な指導方法を学びながら、暴力根絶を推進しています。



先進的な指導方法を学ぶジュニア指導者研修会

平成30年と令和元年

講師：北栄町出身の読売ジャイアンツアスレチックトレーナー

対象：ジュニアクラブ指導者とジュニアクラブ員

令和2年

講師：鳥取県在住元プロ野球アスレチックコーチ &
鳥取県在住パーソナルトレーナー

対象：ジュニアクラブ指導者

この研修会で感じたことですが、感情のコントロールについて「個人によって価値観が違うため、一方的な考えを押し付ける指導法では生産性の低い集団になってしまう。お互いの価値観を尊重し寛容な気持ちで指導すれば自ずと良い結果に結びつく」というお話は、全くその通りだと思いました。

また、子どもにとって楽しい時間を長くすることが、結果として暴力行為から遠ざけることになると思います。

3 「楽しい時間」の創設が有効

【ジュニア指導者研修会に参加した指導者の感想】

- 「競技力を高めることより、楽しい時間を過ごすことの方が、子どものバーンアウトを防ぎ有効だということが再確認できた」(アンガーマネジメント)
- 「感情をコントロールすることが暴力根絶に繋がる。そのために叱る場面で怒った状態で即座に子どもにぶつけるのではなく、数秒間冷静になる間において冷静に指導することが大切だと学んだ。」(アンガーマネジメント)
- 「子どもの自主性に任せて活動させることも時には必要だと感じた。子どもは楽しければ自分たちでアレンジして更に楽しんで練習をする。そういった練習を見守ることも時には必要と感じた」(コーディネーショントレーニング)
- 「特定の競技に偏らない練習が重要だと思った」(コーディネーショントレーニング)

研修会開催で指導者に意識変化→複数種目への加入が増加

以前は一つのクラブしか加入していない子が大多数でしたが、複数種目に加入する子が増えました。研修会を毎年開催することで、クラブが目指す「特定のクラブで子どもを囲い込むのではなく、将来子どものためになるようにシェアする」という考えが指導者に広まりつつあります。

ただ、個人種目に比べて、団体種目はどうしても複数クラブ加入が進みません。年間を通して大会や試合があり、団体登録をするため、個人種目に比べてハードルが高いと感じます。また、全クラブの指導者が研修会に参加しているわけではないため、まだまだ十分ではありません。研修会開催頻度を増やせば良いのですが、予算的なこともあり、増やすことは困難です。

そこで昨年度から日本スポーツ協会が推進するACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を取り入れ、遊ばせながら運動能力を高める事業を展開。スポーツ少年団指導者だけでなく学童保育指導員、学校教員にも参加してもらい、子どもたちの健やかな成長をサポートしています。

4 中学校部活動の地域移行の受け皿に

令和5年より中学校の部活動が地域に移行します。地域移行に際して当クラブが受け皿になることが予想されます。現状当クラブに所属している中学生クラブやその他のクラブに大きな期待が寄せられています。

学校・地域指導者と協議し問題解決を図る

一方、本町の中学校には入りたい部活動が無い、部はあるが人数不足でチームが組めない、チーム競技の部活動とクラブの二重登録問題—など様々な問題を抱えています。

こういった課題を学校、地域の指導者と協議して、持続可能で魅力的な部活動(クラブ)を一つでも増やしていきたいと思います。

スポーツで住民に笑顔を

クラブハウスを構える北栄町B&G海洋センターが令和3年度に防災倉庫(重機、救助ボート、トラックなど)を設置する防災拠点に指定されました。また令和4年度から木質バイオマスボイラーが稼働し、災害などの停電時でもエネルギーを使える施設になります。平時はスポーツで住民に笑顔を届け、非常時には住民をやさしく迎え入れる施設にアップデートします。

(一般社団法人北栄スポーツクラブ スポーツインストラクター 山根 雄一)



週3回約150人が登録する健康運動教室



スポーツ、勉強、創作活動を行う夏休みの北栄BG塾

クラブ プロフィール

設立年月日 平成6年3月25日（平成6年3月25日法人登記）

所在地 鳥取県東伯郡北栄町田井428-1

運営 会員数1,183名（令和3年12月現在）、予算規模4,600万円（令和2年度）

特徴

- ・スポーツ・健康・まちづくりをスローガンに地域住民に親しまれるクラブ運営を心掛けています。
- ・子どもからシニア世代まで体を動かせる場を提供しています。
- ・ジュニア世代には様々な教室を用意しています。生涯にわたりスポーツを楽しんでもらいたいです。
- ・地域の方に最大限施設を利用してもらうために、「当日受付OK」でバドミントンコート/1コートから貸し出しを行っています。

連絡先 〒689-2103 鳥取県東伯郡北栄町田井428-1

TEL 0858-36-4331 FAX 0858-36-4977

URL www.hokuei-sports.or.jp

E-Mail yamane-y@mail5.torichu.ne.jp

特別企画

他団体と連携するクラブ

一般社団法人

コンサドーレ北海道スポーツクラブ

<北海道札幌市>

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、他団体と連携し、充実した活動を行っている総合型クラブをご紹介します。

1 クラブ概要

サッカー以外でも事業を推進

2014年2月、サッカーJリーグに所属する北海道コンサドーレ札幌が、サッカークラブの枠を超えて、北海道内の地域活性化やスポーツを通じた子どもたちの心身の育成、生涯スポーツの実現、コミュニティの創出を目指し、当法人を設立しました。

サッカー、バドミントン、カーリング、チアリーディング、障がい者スポーツなどの種目を取り入れ、スクール事業やチーム運営事業、イベント事業や人材派遣事業を行っております。

一般会員は約1100名 職員20名

当クラブは、職員20名で運営しており、一般会員で約1100名、賛助会員で約30名が在籍しております。会員の内訳は以下の通りです。

■一般会員

サッカースクール990名、大人サッカースクール20名、バドミントンスクール30名
大人バドミントンスクール15名、北海道リラ・コンサドーレ(女子サッカーチーム)40名、
月下美人(シニアチアリーディングクラブ)20名

■賛助会員

法人5名、個人24名





北海道コンサドーレ札幌バドミントンチーム(2022 S/Jリーグ昇格)
集合写真



北海道コンサドーレ札幌カーリングチーム
(世界ランキング16位※2021年11月時点) 集合写真



北海道リラ・コンサドーレ(北海道女子サッカーリーグ所属)
リーグ戦イレブンショット

2 9 団体と連携し相互協力

現在、9団体と連携を行っており、多種多様な内容で相互協力を行っております。今回はそのうち7団体との連携についてご紹介いたします。

①「グラスルーツアライアンス」

連携団体：NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ、NPO法人IFCスポーツコミュニティ

■連携目的

北海道という広大な土地でスポーツの普及活動をするには、我々の持っている人材やつながり、実施種目だけでは到底及びません。そのため、より限られた地域に根差したスポーツクラブさんと連携することにより、さらに広域に多種目で活動することができると考えました。そして、連携団体の知名度向上や会員増加、ノウハウの相互共有による相互発展まで結びつけられると思います。

■連携事業

「コンサドーレ」の名称を冠したサッカースクール事業や幼稚園等への巡回教室、指導者間のレベルアップを目指した相互交流、育成年代の選手たちへより良い環境を提供できるように情報共有などを行っております。



さっぽろAMスポーツクラブ グラスルーツアライアンス締結

②「産学連携協定」

連携団体：札幌国際大学、クラーク記念国際高等学校

■連携目的

北海道内の子どもたちがより夢を追うことができる教育の推進、普段見ているスポーツを多方面から研究できる環境づくりに協力できると考えております。

また、我々の会員である子どもたちの将来への受け皿として機能し、生涯においてクラブやスポーツとの結びつきを感じて、より豊かな生活にできると考えています。

■連携事業

クラブからスポーツビジネス学科への人材派遣(教授)、サッカー部への人材派遣(監督)、学生のリーグのフィールドワークや運営作業の職業体験などを行っております。

また、相互の持ち合わせる施設や指導者を駆使して、助け合えるような関係性を築いています。



クラーク記念国際高等学校 産学連携協定締結式



札幌国際大学 産学連携協定締結式

③「包括連携協定」

連携団体：紋別市、札幌市、留萌市

■連携目的

スポーツの振興活動やプロモーションノウハウ、プロスポーツクラブを活かして、地方創生をお手伝いできると考えております。

しかしながら、クラブとして北海道全域での活動を展開していくために協力いただくことができる企業や自治体などの団体が少ないという課題があります。地方自治体としては、子育て環境の不便さや健康意識の改善、教育環境の整備などに課題を感じている場合が多い、というように双方が抱える課題を双方の強みで解決し、より魅力あるクラブ・まちにできると考えております。

■連携事業

クラブから高校・中学校・スポーツ少年団などへの人材派遣(コーチ)、スポーツイベントの開催、SDGsへの取り組み、各種啓発物の共同制作などのまちづくりの一端を担う事業などに取り組んでいます。



留萌市 包括連携協定



札幌市 包括連携協定

3 新たな収入源創出、ファン獲得等の効果生まれる

これらの連携により、事業拡大による新たな収入源の創出や人材確保、会員への満足度向上、クラブの認知度向上によるファン獲得などの効果を得られています。

連携に欠かせない中長期的な視点

ただし、これらの連携には、双方合意はもちろん、最終的な目標の設定とその目標に基づく事業計画は重要になると考えています。

これらの連携は、短期的なものではなく中長期的に展開していくものでありますが、教育機関の担当者や地方自治体の担当者には定期的に人事異動があるため、事業開始とともに最終目標に関して握っておくことが必要であると考えます。

そして一番大切だと考えているのが、「連携締結までの早さ」「プレゼントの中身(連携内容)を決めてからラッピング(連携締結)をする順番」です。

4 北海道のまちづくりと活性化を目指す

クラブとしては「北海道にスポーツのある日常を」というスローガンを掲げて活動しております。サッカーをはじめとする様々なスポーツに関わり、老若男女・障がいの有無問わずスポーツ文化の定着を目指して今後も活動していきます。

また、これらの活動を通して、北海道という地域のまちづくりや魅力発信のチカラとなり活性化を目指します。

北海道と共に前進し、「世界」へステップアップを

もちろん、「世界」を語るには時期尚早かもしれませんが、このスローガンは1年限りのものではありません。着実にステップアップして世界を意識できるよう、北海道と共にクラブは前進を続けます。

(コンサドーレ北海道スポーツクラブ ラインマネジャー 佐藤 駿)

クラブプロフィール

設立年月日 平成26年2月14日(平成27年10月5日法人登記)

所在地 北海道札幌市中央区北三条西2丁目1-13 NC北専北三条ビル7F

運営 会員数1,100名(令和3年12月現在)、予算規模3億円(令和2年度)

特徴

- ・北海道初のプロスポーツクラブ
- ・北海道全域で事業展開
- ・アマチュアスポーツチームの運営
- ・パートナー企業による支援

連絡先 〒063-0052 北海道札幌市西区宮の沢2条3丁目4-1

TEL 011-777-5314 FAX 011-777-5320

URL <https://chsc.jp/>

E-Mail ssato@consadole.gr.jp



助成金情報

ノエビアグリーン財団 2021年度助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申込期間] 2021年12月1日(水)9:00～2022年2月28日(月)正午12:00

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2022年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

全てのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

[申込期間]

後期 対象期間:2022年10月1日～2023年3月31日の事業

申請期限:2022年6月20日(当日消印有効)

交付決定:2022年9月1日頃(予定)

交付申請要領をご確認いただき、助成金交付申請書等を提出してください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2022」開催のお知らせ

生涯スポーツ・体力づくり全国会議は、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討する貴重な機会として、毎年行われています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※ 2022(令和4)年2月4日(金)に沖縄県においてオンラインとの併用にて開催予定でしたが、昨今の急激な新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンライン(オンデマンド配信)のみでの開催に変更となりました。

沖縄県に来県されてご参加される予定であった皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒事情ご賢察の上、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

- 期日・開催方法
オンライン(オンデマンド):
2022(令和4)年2月14日(月)~28日(月)<予定>
- 内容: 詳細は開催要項(下記URL)をご参照ください。
<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/supotsu/doc/zenkoku2022/convention2022description.pdf>
 - 全体テーマ:
『「スポーツが変わる。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life」から新たなるスポーツ基本計画へ向けて』
 - 全体会(トークセッション)、分科会(1~4)
- 参加料: 1人 2,000円(税込)
※配信期間中は繰り返し視聴可能です。
※全ての分科会が視聴可能です。
- 申込方法等: 下記URL内をご確認ください。
<https://www.japan-sports.or.jp/zenkokukaigi/tabid200.html>
- 申込受付期間
2022(令和4)年2月7日(月)まで ※締切を延長いたしました!
- 備考
本会議は、オンライン(オンデマンド配信)開催のみとなったため、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修の対象とはなりません。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

<本件に関する問合せ先>

【参加申込関連、オンデマンド配信について】

株式会社沖縄コングレ(事務局) E-mail: lifelongsport22@okicongre.jp



【全国会議の内容について】

スポーツ庁 健康スポーツ課 健康・体力づくり係 E-mail: kensport@mext.go.jp

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 国内課(実行委員会事務局)

E-mail: shougai@japan-sports.or.jp

「令和3年度女性スポーツサポート研修会」開催のお知らせ

当協会は、指導者の皆さまが「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック」を活用し、女性とスポーツに関する現状と課題の理解を深めることを目的に、オンライン研修会を開催します。

研修内容のうち、「女性スポーツの医学」、「女性スポーツの栄養」、「女性スポーツ啓発の留意点」については、各回で世代に特化した内容としていますので、ご自身の指導対象や重点的に学びたい事柄に応じ、希望の回にご参加ください。

女性のスポーツ指導現場に携わる指導者や、現在スポーツ活動をしている競技者の方々のご参加を心よりお待ちしております。

- 開催期日 ※時間は全て13:00～16:30(入室開始12:00)
 - 第2回:令和4年2月12日(土) <中学生～成人(性成熟期)>
 - 第3回:令和4年2月19日(土) <高齢期>

※第1回は終了いたしましたので、上記期日からお選びください。
※<>内は「女性スポーツの医学、栄養」等について特化する世代
- 内容
女性スポーツにおけるハラスメント、女性スポーツの医学、栄養、女性スポーツ啓発の留意点
- 開催形態
オンライン(Zoom)による開催
- 定員
各回300名【先着順】
- 参加料
5,500円(税込)
- 申込期間 ※回によって期間が異なりますので、ご注意ください。
 - 第2回:令和3年12月13日(月)～令和4年2月1日(火)
 - 第3回:令和3年12月13日(月)～令和4年2月8日(火)
- 申込方法・参加料の支払い
当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>)でご確認ください。
- 備考
本研修会の参加により、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。(一部の資格を除く)
詳細は当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>)をご確認ください。

<本件に関する問合せ先>

【研修会の内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 国内課

TEL: 03-6910-5811 Mail: woman@japan-sports.or.jp

スポーツ庁情報

参加者募集！地域におけるスポーツの場づくりに関するオンラインセミナー 第4回～学校体育施設の有効活用について～の開催

スポーツ庁では現在、地域におけるスポーツの場づくりに関するオンラインセミナーを全4回で実施中ですが、第4回は「学校体育施設の有効活用について」をテーマに2月16日(水)14:00～16:30に開催予定です。

スポーツ庁だけでなく、総合型地域スポーツクラブや民間事業者等の方々にもご登壇いただき、具体的な取組事例について、現場の生の声を皆さまにお伝えします！

【開催概要】

日時：令和4年2月16日(水)14:00～16:30

開催方法：WEBセミナー(Zoom)

参加費：無料

対象者：

- 自治体のスポーツ施設担当者の方
- 施設管理・運営者、PPP/PFI事業者の方
- スポーツ関連団体の方
- その他スポーツビジネスにご興味のある方

登壇者及び講演内容(予定)：

- スポーツ庁「学校体育施設の有効活用における手引き、令和4年度の国の施策紹介」
- 一般社団法人 飛騨シューレ「学校体育施設は誰のためにあるのか。～学校管理から地域管理へ、そしてPHC(public health care)的地域コミュニティの場に～」
- NPO法人つくばフットボールクラブ「学校部活動改革と中学校体育施設の有効活用における3者の取り組み～谷田部東中学校、つくば市、つくばFCによる共同事業～」
- スポーツデータバンク沖縄株式会社「うるま市におけるICTツールを活用した学校施設の利活用の可能性」
- 愛知学院大学「地域における大学スポーツ資源の有効活用～今後の展開と課題～」

参加申込締切は2月10日(木)17時までとなっておりますので、自治体のスポーツ施設担当者のみならず、学校体育施設の有効活用等にご興味のある方は奮ってご参加ください！

※詳細は以下をご確認ください。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop02/list/jsa_00001.html



ココスタ ～ここが僕・私たちのスタジアム～

スポーツ庁では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて高まったスポーツの機運を活かし、国民の皆様自身に身近な場所でスポーツを実施いただくための企画「ココスタ～ここが僕・私たちのスタジアム～」を始動しています。

本企画は、多数の競技団体やクラブチーム、自治体等の皆さんに、身近な場所でスポーツがしたくなるようなアイデア動画を投稿いただき、それを御覧になられた国民の皆様が身近な場所でスポーツを実施してもらおうという取り組みになります。

企画の詳細や競技団体等に投稿いただいた動画については、スポーツ庁のHPで一元的に取りまとめ、以下のURLにて公開し、スポーツ庁SNSや、各団体の皆さんのSNSで国民の皆さんに動画を参考にスポーツ実施をいただくように呼びかけを行っています。

- スポーツ庁ホームページ：
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/1371920_00001.htm
- スポーツ庁Facebook：
<https://www.facebook.com/japansportsagency/posts/2869997763291369>
- スポーツ庁Twitter：
https://twitter.com/sports_JSA/status/1466633296587083777

総合型クラブの皆様もぜひ本企画の動画を参考にしながら、地域の皆さんと運動・スポーツを行っていただけると幸いです。

そして、よいと思った動画に高評価、本企画がよいと思ったら、スポーツ庁Facebookに「いいね」や「シェア」、Twitterに「いいね」や「リツイート」をお願いできると幸いです。

また、総合型クラブで地域の皆さんと本企画の動画を使いながら運動・スポーツを行った際に、その様子を動画で取られることがありましたら、是非、皆さんがお持ちの動画配信サイトやSNSのアカウントで発信をいただき、皆さんが投稿されたことを世の中に拡散するために、スポーツ庁FacebookやTwitterにうまくリンク付けをしていただけたらと思います。